

薬品情報

No. 406

2025/11/27

作成 薬品情報室

1. 新規採用薬品一覧
2. 採用中止薬品
3. 医薬品の一時出荷停止
4. 医薬品の出荷調整
5. 医薬品の供給再開
6. 後発医薬品の変更
7. その他(トピックス)

1. 新規採用薬品一覧

〔院内採用薬品〕

2129:その他の不整脈用剤

フレカイニド酢酸塩 Flecainide Acetate タンボコール静注 50mg Tambocor 劇、処 エーザイ	【効】 緊急治療を要する下記不整脈、頻脈性不整脈（症候性の発作性心房細動・粗動、発作性上室性頻拍、心室頻拍、及び医師が生命に関わると判定した重症の心室性期外収縮） 【用】 通常、成人には1回 0.1～0.2mL/kg（フレカイニド酢酸塩として 1.0～2.0mg/kg）を必要に応じてブドウ糖液で希釈し、血圧及び心電図監視下 10 分間かけて静脈内に注射する。なお、総投与量はフレカイニド酢酸塩として 1 回 150mg までとする。	【禁】 うっ血性心不全のある患者、高度の房室ブロック、高度の洞房ブロックのある患者、心筋梗塞後の無症候性心室性期外収縮あるいは非持続型心室頻拍のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある女性、リトナビルを投与中の患者、ミラベグロンを投与中の患者、テラプレビルを投与中の患者 【副】 重大な副作用 一過性心停止、心室頻拍（Torsade de pointes を含む）、心房粗動、心室細動、Adams-Stokes 発作
--	--	---

1139:その他の抗てんかん剤

ジアゼパム Diazepam スピジア点鼻液 5mg / 10mg Spydia 向、処 アキュリスファーマ	【効】 てんかん重積状態 【用】 通常、成人及び2歳以上の小児にはジアゼパムとして、患者の年齢及び体重を考慮し、5～20mg を1回鼻腔内に投与する。効果不十分な場合には4時間以上あけて2回目の投与ができる。ただし、6歳未満の小児の1回量は15mg を超えないこと。	【警】 本剤を交付する際には、本剤交付前に保護者(家族)又はそれに代わる適切な者が投与できるよう、本剤の投与が必要な症状の判断方法、本剤の保存方法、使用方法、使用時に発現する可能性のある副作用等を保護者(家族)又はそれに代わる適切な者が理解したことを確認した上で交付すること。 【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、急性閉塞隅角緑内障の患者、重症筋無力症の患者、リトナビル、ニルマトレルビル・リトナビルを投与中の患者 【副】 重大な副作用 依存性、離脱症状、刺激興奮、錯乱等、呼吸抑制
--	--	--

4291: その他の抗悪性腫瘍用剤

ベルズチファン Belzutifan ウェリレグ錠 40mg Welireg 劇、処 MSD株式会社 【剤】 フィルムコーティング錠 【組】 1錠中にベルズチファンとして40mgを含有	【効】 フォン・ヒッペル・リンドウ病関連腫瘍、がん化学療法後に増悪した根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 【用】 通常、成人には、ベルズチファンとして、1日1回120mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	【警】 本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の使用が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に本剤の有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。 【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 【副】 重大な副作用 貧血、低酸素症
--	--	---

【院外採用薬品】**2399: 他に分類されない消化器官用薬**

オザニモド塩酸塩 Ozanimod Hydrochloride ゼポジアカプセルスターターパック (0.23mg/0.46mg) / 0.92mg Zeposia 劇、処 ブリストル・マイヤーズスクイブ 【剤】 硬カプセル剤 【組】 0.23mg：1カプセル中にオザニモドとして0.23mgを含有 0.46mg：1カプセル中にオザニモドとして0.46mgを含有 0.92mg：1カプセル中にオザニモドとして0.92mgを含有	【効】 中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療（既存治療で効果不十分な場合に限る） 【用】 通常、成人にはオザニモドとして1～4日目は0.23mg、5～7日目は0.46mg、8日目以降は0.92mgを1日1回経口投与する。	【警】 1.1 本剤の投与は、緊急時に十分対応できる医療施設において、本剤についての十分な知識と適応疾患の治療の知識・経験をもつ医師のもとで、本剤による治療の有益性が危険性を上回ると判断される患者のみに使用すること。治療開始に先立ち、本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含め、本剤の有効性及び危険性を患者に十分説明し、患者が理解したことを確認した上で治療を開始すること。1.2 本剤の投与により心拍数の低下がみられ、特に本剤の漸増期間中に生じる可能性が高いことから、循環器を専門とする医師と連携するなど、適切な処置が行える管理下で本剤の投与を開始すること。1.3 本剤の投与により、黄斑浮腫等の重篤な眼疾患が発現することがあるので、十分に対応できる眼科医と連携がとれる場合に使用すること。1.4 本剤の治療を行う前に、既存治療薬(5-アミノサリチル酸製剤、ステロイド等)の使用を十分勧告すること。 【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、活動性の感染症を有する患者、本剤の投与開始前6ヵ月以内に心筋梗塞、不安定狭心症、脳卒中、一過性脳虚血発作、入院を要する非代償性心不全、NYHA分類Ⅲ度又はⅣ度の心不全を発症した患者、モビッツⅡ型第2度房室ブロック、第3度房室ブロック又は洞不全症候群の既往歴又は合併症のある患者(ペースメーカー使用患者を除く)、重度かつ未治療の睡眠時無呼吸のある患者、重度の肝機能障害(Child-Pugh分類C)のある
--	---	--

		患者、妊婦又は妊娠している可能性のある女性、生ワクチンを接種しないこと(生ワクチンを接種すると発症するおそれがある。本剤の投与中及び投与終了後最低3ヵ月間は接種を避けること。生ワクチンによる免疫獲得が必要な場合は、本剤投与開始1ヵ月以上前に接種すること。) 【副】重大な副作用 感染症、進行性多巣性白質脳症(PML)、黄斑浮腫、肝機能障害、徐脈性不整脈、リンパ球減少、可逆性後白質脳症症候群
--	--	---

1139: その他の抗てんかん剤

ジアゼパム Diazepam スピジア点鼻液 7.5mg Spydia 向、処 アキュリスファーマ 【剤】 点鼻液 【組】 1容器(0.1mL)中ジアゼパムとして7.5mgを含有	【効】 てんかん重積状態 【用】 通常、成人及び2歳以上の小児にはジアゼパムとして、患者の年齢及び体重を考慮し、5～20mgを1回鼻腔内に投与する。効果不十分な場合には4時間以上あけて2回目の投与ができる。ただし、6歳未満の小児の1回量は15mgを超えないこと。	【警】 本剤を交付する際には、本剤交付前に保護者(家族)又はそれに代わる適切な者が投与できるよう、本剤の投与が必要な症状の判断方法、本剤の保存方法、使用方法、使用時に発現する可能性のある副作用等を保護者(家族)又はそれに代わる適切な者が理解したことを確認した上で交付すること。 【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、急性閉塞隅角緑内障の患者、重症筋無力症の患者、リトナビル、ニルマトレルビル・リトナビルを投与中の患者 【副】重大な副作用 依存性、離脱症状、刺激興奮、錯乱等、呼吸抑制
--	---	--

119: その他の中枢神経系用薬

リバスチグミン Rivastigmine リバルエンLAパッチ 25.92mg / 51.84mg Rivaluen 劇、処 東和薬品 【剤】 貼付剤 【組】 25.92mg: 1枚中にリバスチグミンとして25.92mgを含有 51.84mg: 1枚中にリバスチグミンとして51.84mgを含有	【効】 軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制 【用】 通常、成人にはリバスチグミンとして1回25.92mgから開始し、原則として4週後に維持量である1回51.84mgに増量する。本剤は背部、上腕部、胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付する。原則として開始時は4日間貼付し、1枚を3～4日ごとに1回(週2回)貼り替える。	【禁】 本剤の成分又はカルバメート系誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者 【副】重大な副作用 QT延長、狭心症、心筋梗塞、徐脈、房室ブロック、洞不全症候群、脳卒中、痙攣発作、食道破裂を伴う重度の嘔吐、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃腸出血、肝炎、失神、幻覚、激越、せん妄、錯乱、脱水
---	---	--

<プラリア HI皮下注 60mg シリンジの採用について>

- ・プラリア皮下注 60mg シリンジ【60mg/1mL】(第一三共)
 → プラリア HI皮下注 60mg シリンジ【60mg/0.5mL】(第一三共)に切替え
 (薬の濃度を高めて注射液量を減らすことで皮下注射時の疼痛を軽減するため)

＜後発医薬品の採用について＞

医薬品購入コスト（年間 1,400 万円）の削減及び患者負担軽減のため、以下 3 製品の後発医薬品への切替えを行います。

1) リネゾリド点滴静注 600mg/300mL「HK」（光製薬）：6,408 円
（先発品：ザイボックス注射液 600mg（ファイザー）：9,484 円は削除）…40 袋/月

2) ダプトマイシン静注用 350mg「ニプロ」※¹（ニプロ株式会社）：4,761 円
（先発品：キュビシン静注用 350mg（MSD）8,672 円は削除）…30 瓶/月
※¹採用の後発医薬品は室温保存になります。

3) ランジオロール塩酸塩点滴静注用 150mg「F」※²（富士製薬）：4,848 円
（先発品：オノアクト点滴静注用 150mg（小野薬品）：9,963 円は削除）…180 瓶/月
※²適応症が一部異なるため、適応症を確認の上処方して下さい。

2. 採用中止薬品

当院採用の下記薬品について、採用中止と切り替え薬品は以下のようになる。

中止医薬品	中止理由、切り替え薬品
アクアチムローション 1%（大塚製薬）	製造販売中止のため
エミレース錠 3mg / 10mg（LTL ファーマ）	製造販売中止のため
ウレパールローション 10%（大塚製薬）	販売中止のため →ウレパールクリーム 10%（大塚製薬）を代替採用
コバシル錠 4mg（協和キリン）	製造販売中止のため
パナルジン錠 100mg（チェプラファーム）	製造販売中止のため
パピロックミニ点眼液 0.1%（参天製薬）	製造販売中止のため
リドカイン点滴静注液 1%「タカタ」（高田製薬）	製造販売中止のため

3. 医薬品の一時出荷停止

一時中止医薬品	出荷停止理由
エリスロシン錠 200mg（ヴィアトリス製薬）	入荷遅延が生じたため
ケフレックスカプセル 250mg（共和薬品）	入荷遅延が生じたため
ポリフル錠 500mg（ヴィアトリス製薬）	入荷遅延が生じたため
ギャバロン髄注 0.005% / 0.05% / 0.2%（第一三共）	製造委託先が破産したため
献血グロベニン- I 静注用 2500mg（武田薬品）	製造工程で確認すべき事象が発生したため
サンリズム注射液 50（第一三共）	製造委託先が破産したため
デノシン点滴静注用 500mg（田辺三菱製薬）	入荷遅延が生じたため →追記）11/26 より通常出荷再開となった

4. 医薬品の出荷調整

（院外採用）

・ ウゴービ皮下注 SD（0.25mg / 0.5mg / 1.0mg / 1.7mg / 2.4mg）（ノボノルディスク）
→ ウゴービ皮下注（0.25mg ペン 1.0MD、0.5mg ペン 2.0MD、1.0mg ペン 4.0MD、1.7mg ペン 6.8MD、2.4mg ペン 9.6MD）（ノボノルディスク）に切替え

(院内採用)

- ・カタクロット注射液 40mg (丸石製薬) ...他社製品による影響
- ・献血ノンスロン静注用 1500 注射用 (武田製薬) ...製造工程で確認すべき事象が発生したため
- ・点滴静注用ホスカビル注 24mg/mL (クリニジェン) ...想定以上に需要が増加したため

5. 医薬品の供給再開

(院内外採用)

- ・メトロニダゾールゲル 0.75% 「マルイシ」 (丸石製薬)

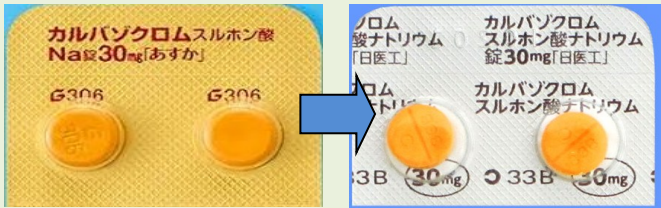
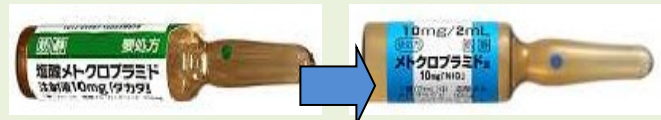
(院内採用)

- ・ハイカムチン注射用 1.1mg (日本化薬)
- ・スガマデクス静注用 200mg 「マルイシ」 (丸石製薬)
- ・フェンタニル注射液 0.1mg 「テルモ」 2mL/A (テルモ)

6. 後発医薬品の変更

(○：採用後発医薬品)

レニベース錠 2.5mg、5mg が後発医薬品に変更、他 3 剤は出荷停止のため採用メーカー変更となる。

 カルバゾクロム スルホン酸 Na 錠 30mg 「あすか」 ○カルバゾクロム スルホン酸ナトリウム錠 30mg 「日医工」	 メトクロプラミド錠 5mg 「タカタ」 ○メトクロプラミド錠 5mg 「ツルハラ」
 レニベース錠 2.5mg ○エナラプリルマレイン 酸塩錠 2.5mg 「EMEC」	 レニベース錠 5mg ○エナラプリルマレイン 酸塩錠 5mg 「EMEC」
 塩酸メトクロプラミド 注射液 10mg 「タカタ」 ○メトクロプラミド注 10mg 「NIG」	

7. その他（トピックス）

「注射向精神薬等の残薬管理・廃棄方法について」

病棟及び外来における注射向精神薬の残薬管理・廃棄方法について周知をお願いいたします。

（下記資料は HIS の「7) 薬剤部」に配置しておりますので必要時ご確認ください。）

- ・「注射向精神薬等の残薬管理・廃棄方法について（通知）」（令和 5(2023)年 3 月 2 日発出文書）

向精神薬の残薬管理と廃棄方法について、統一的な手順を定めました。以下の内容をご確認の上、ご対応いただけますようお願い申し上げます。尚、手術室の運用は一般病棟と異なりますので、別途定めたマニュアルに準じたご対応をお願いいたします。

問い合わせ先 薬品管理室（内線 2404、2405）

◇注射向精神薬等の管理台帳の記載方法◇

向精神薬等 在庫注射の管理台帳の記載方法

- ①使用日、使用患者名、施用本数、現在庫数、署名、全量使用しない場合は残量
- ②個人処方後に、薬剤部からの受入日、使用患者名、受入本数、現在庫数、署名

薬品名		ソセゴン注15mg		定数2	(病棟控) 1-1	
月 日	使用患者名	受入	施用	現在庫数	薬剤部への返却	署名
2/3	秋田太郎		1	1	ml残量	〇〇
2/4	秋田太郎	1		2	ml残量	〇〇
2/5	男鹿次郎		1	1	ml残量	〇〇
2/5	秋田花子		1	0	ml残量	〇〇
2/6	男鹿次郎	1		1	ml残量	〇〇
2/6	秋田花子	1		2	ml残量	〇〇
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	

対象薬剤

- ・ソセゴン注射液15mg
- ・サイレース静注2mg
- ・レペタン注0.2mg
- ・ホリゾン注射液10mg
- ・ノーベルバル静注用250mg
- ・フェノバルール注射液100mg
- ・ミダゾラム注10mg「NIG」

2枚複写

- ・1枚目（黄）病棟控え
- ・2枚目（白）薬剤部控え

2023.3月作成

◇注射向精神薬等の残薬管理・廃棄方法◇

- 1) 臨時注射、入院注射、在庫注射についてのオーダー画面上の対応【医師】
 - ・「臨時注射」「入院注射」は、実施時に0.5Aなどの使用分を入力する
 - ・「在庫注射」は、0.5Aなどの使用分を事後入力する
- 2) 残薬分はシリンジに残を入れて薬剤部に返却（※注射針は外しキャップを付けて返却する）
- 3) 生食等希釈後に半量投与などで残液が出る場合は、投与後残薬を付けて薬剤部に返却
 - ・どの患者さんの返却分かわかるように、注射箋(病棟)や控え印刷等に貼り付けて残薬分を返却する（病棟では廃棄を行わない）…残薬液の返却はその都度
- 4) 「在庫注射」で残廃棄が出た場合一台帳の「薬剤部への返却」欄に記載
（薬剤部控に使用部署を記載し、台帳は月ごとに月初めに薬品管理室へ送る）

薬品名		ソセゴン注15mg		定数2	(病棟控) 1-1	
月 日	使用患者名	受入	施用	現在庫数	薬剤部への返却	署名
/					0.5 ml残量	
/					0.3 ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	
/					ml残量	

↑「薬剤部への返却」欄に記載

薬剤部薬品管理室

- 5) 薬品管理室では、薬品を確認し残薬を廃棄する
- 6) 薬品管理室では、病棟等から送られてくる台帳を薬品ごとに2年間保管する

2枚複写

- ・1枚目（黄）病棟控え
- ・2枚目（白）薬剤部控え

2023.3月作成

裏ページあり

注射箋（病棟）に残量記載し、薬剤と一緒に薬剤部へ返却する

（病棟では廃棄しない）

臨時注射or在庫注射 **注射箋（病棟）** 1 / 1

第 1 病棟 4 02月13日 分

発行日：2023年02月13日
発行時刻：10:43:31
65976591

1	点滴静注	脳神経外科		
※	フィジオ140輸液【500mL/袋】		1 袋	1 袋
	ピタメジン静注用		1 瓶	1 瓶
	1日1回			
	指示種1番目	65976591		

2)残シリンジ返却のパターン

「1mL 返却」と記載する 1 A

3)希釈後返却のパターン

「生食希釈したもの50mLを返却」と記載する

2	静注（ワンショット）	脳神経外科		
※	ホリゾン注10mg【2mL/A】			
	検査時			
	指示種1番目 (21:00)	65977792		

3	点滴静注	脳神経外科		
※	エネフリード輸液【550mL/KT】		1 キット	1 キット
	1日1回			
	指示種1番目	65977794		

※在庫から使用した場合の返却は、個人処方後に返却となる

2023.3月作成